

第3章 ヒアリング調査結果と考察

1 ヒアリング調査結果

各事例から、高校生が地域活動に取り組みやすい環境を整備するための方策を探るため、以下の3つの項目から回答をまとめた。

(1) 地域活動が円滑に進んでいる要因

- ・学校全体での地域活動の目的や目標の共有・明確化
- ・多くの生徒が参加できる地域活動の全体計画の作成
- ・学校の中で核となる地域連携教員等による地域活動の計画・立案
- ・地域活動に関する意識向上の研修の実施
- ・教科や校務を越えた組織づくり
- ・地域連携教員等による連携窓口の設置
- ・市町の生涯学習やまちづくり担当課への働きかけ
- ・活動参加を促すための教員による言葉かけ・雰囲気づくり
- ・探究活動における多様な人との関わり
- ・学校運営協議会等における情報交換・共有
- ・魅力ある学校づくりと地域連携の一体化
- ・地域と学校をつなぐ機関・団体等との連携
- ・地域団体が連携した地域活動を行う際の学校側への丁寧な説明

(2) 地域活動を持続可能にしている要因

- ・学校全体での取組内容の把握と業務運営のための組織化
- ・地域連携教員と活動を担当する教員との情報共有、協力・相談体制づくり
- ・地域活動を受け入れてくれる小・中学校や社会教育施設等との連携
- ・地域の人的・物的資源の情報収集
- ・伝統産業に携わる人との関わり
- ・無理のない活動範囲での地域活動
- ・学校から地域への連携活動の参加・協力の呼びかけ
- ・同窓会やPTA とのつながり
- ・キャリア教育で、地域に必要な人材や自分の将来像をイメージしてからの活動
- ・地域でつくる高校生の活動機会の提供

(3) 地域活動を進める上での課題

- ・学校内における地域活動の趣旨の共通理解
- ・地域活動を授業に組み込んだ教育課程の作成
- ・教育的効果、地域への貢献を踏まえた計画・立案
- ・自主的に活動できる時間の確保

2 考察

今年度のヒアリング調査結果で得られた前述の 3 項目に対する回答内容を、昨年度の調査

で確認できた、生徒の地域活動の場を創出するために学校が課題としている「校内体制の整備」「行政や地域との連携体制の構築」という 2 つの観点と重ねて分析した。

その結果、「校内体制の整備」のためには、地域活動に関する意識向上の研修の実施、教科や校務を越えた組織づくり、地域連携教員と活動を担当する教員との情報共有、協力・相談体制づくりが効果的な方策であると認められた。また、「行政や地域との連携体制の構築」のためには、地域連携教員等による連携窓口の設置、地域の人的・物的資源の情報収集、学校から地域への連携活動の参加・協力の呼びかけ、市町の生涯学習やまちづくり担当課への働きかけ、地域と学校をつなぐ機関・団体等との連携が効果的な方策であると認められた。

さらに、今年度の調査から、生徒が地域の中で多くの人と関わることが、地域の一員としての意識向上や地域活動への主体的参加につながるということが各事例に共通した成果として認められた。そこで、上記の 2 観点に加え、「多様な大人と接する機会づくり」という観点からも整理したところ、活動参加を促すための教員による言葉かけ・雰囲気づくり、地域でつくる高校生の活動機会の提供が効果的な方策として認められた。

調査事例では以下のような方策により、地域活動に取り組みやすい環境を整備していた。これらを参考にして、学校の実情に応じて取り組むことが効果的と考えられる。

(1) 校内体制の整備

ア 全校での目的や目標の共有・明確化

- ・日光明峰高等学校では、定期的に地域連携係による校内での話合いの場を設け、地域活動に関する目的を明確にし、共有するとともに、地域の方にも参加していただく代表者会議を設け実施したことで、地域との密接な関係を保っている。

イ 全校での組織的な取組による活動の充実

- ・日光明峰高等学校では、地域連携教員が企画・調整、年間計画の作成が行えるよう校務分掌上の配置を工夫し、協力・相談体制を整備するとともに、多くの生徒が参加できる活動の実施を目標に全体計画を作成することで、全校での組織的な取組としている。

ウ 担当する教員間の目標共有

- ・栃木工業高等学校では、栃木市内の中学校を対象とした出前授業に携わる教員間で活動の目標を共有し、明確にした上で、各科の特色を生かした出前授業を実施している。

(2) 行政・地域との連携体制の構築

ア 地域活動の継続化・活性化

- ・鹿沼高等学校では、鹿沼市教委生涯学習課や同窓会、PTA と連携をすることにより、継続的で充実した地域活動につながっている。
- ・小山北桜高等学校では、地域のまちおこし団体「歴史とロマンのかんぴょう街道推進協議会」と連携し、地域の物的資源であるかんぴょうを使用したアイスの商品開発等をとおして、地域の活性化に貢献している。

イ 新たなアイデアの発見・活動の開発

- ・鹿沼東高等学校では、「総合的な探究の時間」で鹿沼市教委生涯学習課をとおして NPO と連絡をとり、講師を紹介してもらうことで新たな活動につながった。そして、鹿沼の地場産業を理解し、次世代に伝えていく授業が実践できた。

(3) 多様な大人と接する機会づくり

ア 地域の一員としての意識向上

- ・小山北桜高等学校では、「歴史とロマンのかんぴょう街道推進協議会」と連携し、様々な業種の方と関わり、地域の活性化に取り組む中で自分からアイデアを出し、行動を起こすことができるようになり、地域の一員としての意識向上につながった。
- ・鹿沼東高等学校では、伝統産業の継承や活性化に関わる人々と接することをとおして、「世の中に貢献すること」や「活動に価値を見出すこと」について、生徒が感じとり、地域の一員としての意識をもつことができた。

イ 地域活動への主体的参加

- ・栃木工業高等学校では、障害のある方々の支援に自分たちの技術が役に立つことを実感できることから、車いす修理ボランティアに対する生徒の関心度が高く、持続可能で主体的な地域活動となっている。

様々な地域活動をとおして、生徒の自己有用感や地域の一員としての当事者意識などを育むことができるようになることから、学校内で地域活動の趣旨を理解し、地域連携教員を中心に協力体制を整えていくことが大切だと考える。

また、生徒自身に自分にあった地域活動を体験させるには、多様な地域活動に関する情報提供、教員からの地域活動参加への勧めや後押しも重要だと考える。

- * 「地域活動の参加促進に向けて～地域課題に関する調査研究～」 概要・総括編
報告書 (令和2(2020)年3月) P15 才 地域課題に関する活動を進めるための
課題と必要な支援について

おわりに

新学習指導要領では、予測困難な時代を生き抜く力をもった子どもを育成するため、社会に開かれた教育課程のもと、社会と連携・協働した教育活動の充実が求められている。地域と関わりながら身近な課題の解決に取り組むことは、生徒の社会参画意識を高めることにつながる。よって、各学校においては地域と連携した学習機会を創出し、生徒に様々な課題の解決に取り組ませることが必要となる。

そこで、生徒に社会を形成する一員として必要な判断力や実践力、郷土愛を身に付けさせるため、今回の事例を参考に、各学校の実情に応じて地域活動と総合的な探究の時間などとの関連を図りながら、地域活動のよりいっそうの充実に努められるよう願っている。

なお、調査研究の成果としてリーフレットを作成し、関係各所に配布するので御一読いただきたい。また、当センターで実施する地域との連携・協働の中核となる地域連携教員を対象とした研修での活用を図り、高校生への地域活動参加促進について働きかけていきたい。